

様式第5号

出張調査報告書

平成30年12月4日

松伏町議会議長 川上 力 様

会 派 名 自 民 ク ラ ブ

代 表 者 名 松 岡 高 志



下記のとおり、先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成30年11月7日から平成30年11月8日
2 視 察 地	(1) 山形県西置賜郡飯豊町 11月7日(水) (2) 山形県米沢市 11月8日(木)
3 視 察 目 的	(1) 「道の駅いいで」の概要と防災拠点化概況 (飯豊町) (2) 「上杉鷹山の教えと道徳教育」について 「よねざわ鷹山大学の取り組み」について (米沢市)
4 視 察 者 氏 名	松岡高志、高橋昭男、佐藤永子、田口義博、増田等
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

平成 30 年度自民クラブ行政視察行程表

1. 期日 平成 30 年 11 月 7 日 (水)・11 月 8 日 (木)

2. 視察先 ①山形県西置賜郡飯豊町

②山形県米沢市

3. 行程&視察スケジュール

	日時	内容	備考
1 日目 (11/7) 水曜日	8:00	せんげん台駅東口 集合	
	8:20 ⇒9:00	せんげん台駅 大宮駅	東武スカイツリーライン 東武アーバンパークライン
	9:22 ↓	大宮駅発	山形新幹線 つばさ 129 号
	11:04	米沢駅着	
	11:25 ⇒12:00	米沢駅 「道の駅 いいで」	※レンタカー移動
	12:00 ~12:45	昼食	「道の駅 いいで」内レストラン
	13:00 ~ 15:00	飯豊町役場	視察研修項目 「道の駅 いいで」の概要 と防災拠点化の概況
	15:30 ⇒16:30	飯豊町出発 米沢市着	※レンタカー移動 米沢市内宿泊 (ホテル東横イン米沢駅前)
2 日目 (11/8) 木曜日	9:00 ⇒9:15	宿泊先出発 米沢市役所	※レンタカー移動
	9:30 ~ 11:30	米沢市役所	視察研修項目 1. 上杉鷹山の教えと道徳教育 2. よねざわ鷹山大学の取り組み
	12:00 ~13:00	昼食	「道の駅米沢」にて昼食
	13:00 ⇒15:30	道の駅出発 米沢市内観光資源視察 米沢駅	上杉博物館他 ※レンタカー移動
	16:38 ↓	米沢駅発	山形新幹線 つばさ 150 号
	18:22	大宮駅着	
18:42 ⇒19:15	大宮駅 せんげん台駅 解散	東武アーバンパークライン 東武スカイツリーライン	

宿泊先：ホテル東横イン米沢駅前 米沢市東 3-5-28 ☎0238-22-2045

5 視察結果

(1) 山形県西置賜郡飯豊町 (平成30年11月7日)

《飯豊町概要》

飯豊町は人口7,250人面積32,960km²、山形県の南西部に位置し、東は米沢市および川西町、西は小国町、南は福島県喜多方市、北は長井市にそれぞれ隣接している。町の北東部は、白川の水と肥沃な耕地を利用した農業地帯で良質米を生産し、丘陵地は肉牛の産地でもある。飯豊町は仙台と新潟を結ぶ内陸横断ルートのほぼ中間地点となっており、道の駅がある国道113号は新潟に向かう主要幹線道路として、物流の大動脈機能と生活道路の両面を担っていて交通量が多い。

《視察内容》

「道の駅いいで・めざみの里観光物産館」・・・平成9年4月1日オープン

1 施設の概要

運営主体	飯豊めざみの里(株) 飯豊町持株比率51% 社長は飯豊町町長
運営方式	第3セクター方式指定管理者制度による5か年契約
施設利用料	年間2200万円を町に納入、補助金交付なし
売上構成比	物販70%・飲食23%・その他7%
利用者数	平成29年度来館者数81万人(内レジ通過数47万人)
売上高	平成29年度6億4700万円
常勤社員数	44名
防災拠点	町指定の避難所、災害中継基地、ドクターヘリ発着所

2 道の駅いいででの取り組み

○特産品の販売

米沢牛の40%を肥育している飯豊町産米沢牛や飯豊町こくわワイン、どぶろくまんじゅう・ケーキ、ゆりそば・うどんなど

○情報発信基地

大型モニターによって、周辺道路情報・天気・地域の観光情報を提供

○地域振興連携

町内の幼稚園児を対象に、所有の農園で「里いも堀体験」を実施

介護施設・福祉施設等の入所者が車いすのまま利用できるようにレストランを改装し多目的トイレを整備

○防災の拠点

平成23年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに「防災の拠点」としての機能を求められるようになる。

3 災害時の対応状況及び防災拠点化への動き

- 平成 16 年 10 月 23 日 新潟中越地震
 - ・太平洋側から日本海側に向かう救援物資と救援隊の中継基地
 - ・日本海側に向かう車両に対する道路情報の提供
- 平成 17 年 12 月 22 日 大雪と地吹雪による国道 113 号線通行止め
 - ・16:00 で全館閉館とし、5 名の社員以外の社員を帰宅させる
 - ・駐車場の除雪及び脱出不能車両を、重機を使って引き上げる
 - ・周辺道路状況、及び、近隣道の駅の状況確認
 - ・問い合わせに対する情報提供
 - ・レストランを避難場所とし、無料コーヒー、牛丼、カレーの安価提供
 - ・地元ラジオ局に依頼して翌朝まで避難所として開放することを告知
 - ・泊まり込むドライバーに備えて、社員宅から毛布を持ち込み準備
- 平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災
 - ・16:30 で全館閉館
 - ・2 次災害に備えて 19:00 から 4 名待機
 - ・夜間のトイレ誘導
 - ・翌日以降、新潟以南の救援隊に対する道路情報等の情報提供
(以後、道の駅駐車場が救援物資の無人受渡し場所となる)
- 平成 25 年
 - ・飯豊町指定避難所の指定を受ける
 - ・自然エネルギー導入事業の完成
- 平成 26 年 6 月 15 日 国道での交通事故発生に伴うドクターヘリの受け入れ
 - ・道の駅側の駐車場を封鎖
 - ・う回路の案内
 - ・ドクターヘリ着陸、救急車で現場へ
- 平成 28 年
 - ・飯豊町と「災害時における支援協力に関する協定」を締結

《所感》

「駅長は行政ではなく会社としての立ち上げ方が分かっている民間の人がよい」「建物整備に関して会社は協議に参加できず、非常に扱いづらい施設となってしまった。設計段階から運営者は立ち会った方がよい。実力のある人を運営者に迎えることができれば、事業として成功する可能性が上がる。」と駅長の安達専務から道の駅の成功のための秘訣を話していただいた。安達氏は元々民間でスーパーの店舗立上げ等の仕事をしていたとのことであり、また、説明内容は実績を伴うものであり、「道の駅いいで」の黒字経営の自負が伺われた。

「道の駅いいで」の防災拠点化への動きにあるように、本町において、首都直下など発災時の道の駅の役割は防災機能の有無にかかわらず、町内外からその役割を期待されることとなる。安達専務もこれからの道の駅には特に防災機能が重要であると話されていた。

松伏町の「道の駅」基本構想から基本計画に至る段階において、多くの課題がある中、運営方式と経営の黒字化、発災時の防災拠点化を意識した計画づくりが重要となる。本町の将来像において、道の駅は欠かせないものである。実現に向けて、先進地等の視察など調査研究を深化させていきたい。

(2) 山形県米沢市 (平成30年11月8日)

《米沢市概要》

○人口 84,000人

○面積 548.74 km²

《視察内容》

「上杉鷹山の教えと道徳教育」について

1. 米沢市の学校教育の目標

生きる力を育む学校教育

多様な価値観が交じり合う時代に、様々な問題に主体的に対応し、かかわり合いの中でよりよく生きる。これを支えるものは、自ら考え、判断・行動する力、つまり「生きる力」である。

2. 米沢市学校教育の基本理念

知・徳・体の基本として

確かな学力 感性豊かな 健やかな体

上杉鷹山公の教えから

①「目的意識の確立」②「倫理観の醸成」③「実学性の重視」を継承して米沢の子供を育てており、この3つの基本理念を米沢の教育では大事にしている。

①目的意識の確立とは、一人ひとりが何のために学び、どのような生き方をしているのか、信念や志を持つこと。

②倫理観の醸成とは、人として身につけなければならない公共心や規範意識などの倫理観を小さい時から時間をかけて育てていくこと。

③実学性の重視とは、社会の変化や時代の要請を感性豊かにとらえ、学んだことを生かして活用していく柔軟性を持ち、自他を認め合いながら、生きる力を備えること。

3. 米沢市学校教育のめざす子ども像は

「がってしない子ども」

(へこたれない・びくともしない、辛抱して屈しない、粗野・頑固)

「おしょうしな」

(ありがとう・あたたかなきもち)

⇒ 心豊かにたくましい子供の姿

4. 米沢市の道徳教育

郷土資料集「ふるさと米沢の心」や社会科副読本「私たちの米沢」を通して、郷土の先人の伝記、逸話などの題材を取り上げてその生き方考え方などを学ばせ、児童生徒の道徳性を養い、併せて郷土に対する深い理解と愛着を培っている。

(1) 郷土資料集「ふるさと米沢の心」の発刊

昭和56年より道徳の郷土資料を作成。平成6年に道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」を発刊して小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒に配付した。(特別の教科道徳において教科書と共に活用)

(2) 郷土資料集・映像教材の制作

道徳郷土資料集の活用状況調査から、古い資料の取り扱いが難しく、時代背景や文章の難解なものについて、映像による教材の開発要望が高まってきた。そこで、より効果的な活用において視聴覚教材化を図ることとし、平成8年から3年間で3つの*1ビデオ資料を制作し、各小中学校に配付した。

*1「荒れ地を美田に」「吾妻の白ザルを求めて」「天然痘をなくせ」

さらに、道徳郷土資料集「ふるさと米沢の心」の関連資料をDVDにまとめ、平成26年度に各小中学校に配付した。

「鷹山公と平洲先生」「水に強い町づくり～直江兼統の治水事業～」
「皆川陸雄ものがたり」「米沢の鯉」「有機ELの魅力」など9作品

(3) 社会科副読本「私たちの米沢」

社会科の副読本として、

- 1 わたしたちのまちみんなのまち
- 2 人々の仕事とわたしたちの暮らし
- 3 かわってきた人々の暮らし
- 4 暮らしを守る
- 5 住みよい暮らしをつくる
- 6 きょう土を開く

を小学校3年生、4年生に配付した。

(4) 米沢市だれもが行きたくなる学校づくり推進事業

子どもたちにとって、いじめ・不登校のない「楽しい学校」「安心できる学校」づくりとして、児童生徒のよりよい人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成をめざして、各校のミドルリーダー研修「だれもが行きたくなる学校づくり研修会」の実施、全校共通実践としてSEL・協同学習・ピアサポートの実施をしている。

「よねざわ鷹山大学の取り組み」について

米沢鷹山大学は市民が主体となって、相互に学び合い教え合い高めあうことで、まちづくり人づくりに貢献することを目的にし、平成23年4月1日から市民が直接運営する組織としてスタートしている。「いつでも どこでも だれもが」学習できる東北で唯一の市民による市民のための生涯学習活動の拠点です。米沢鷹山大学の職員は3名、運営委員会は14名で構成されている。

1. 主な事業

(1) さまざまな学習機会の提供、より多くの市民が参加できる多様な講座の開設

- 米沢鷹山大学企画講座運営
- おもしろいなカレッジの運営
- 市民のニーズに応える講座の開発

(2) 市民の自主的な学習活動の支援学習相談情報の提供

- 指導者やサークルなどの紹介および登録。
- 生涯学習機関のカルチャーセンターやコミュニティセンター等との連携
- 機関誌（マナビィ通信）の発行

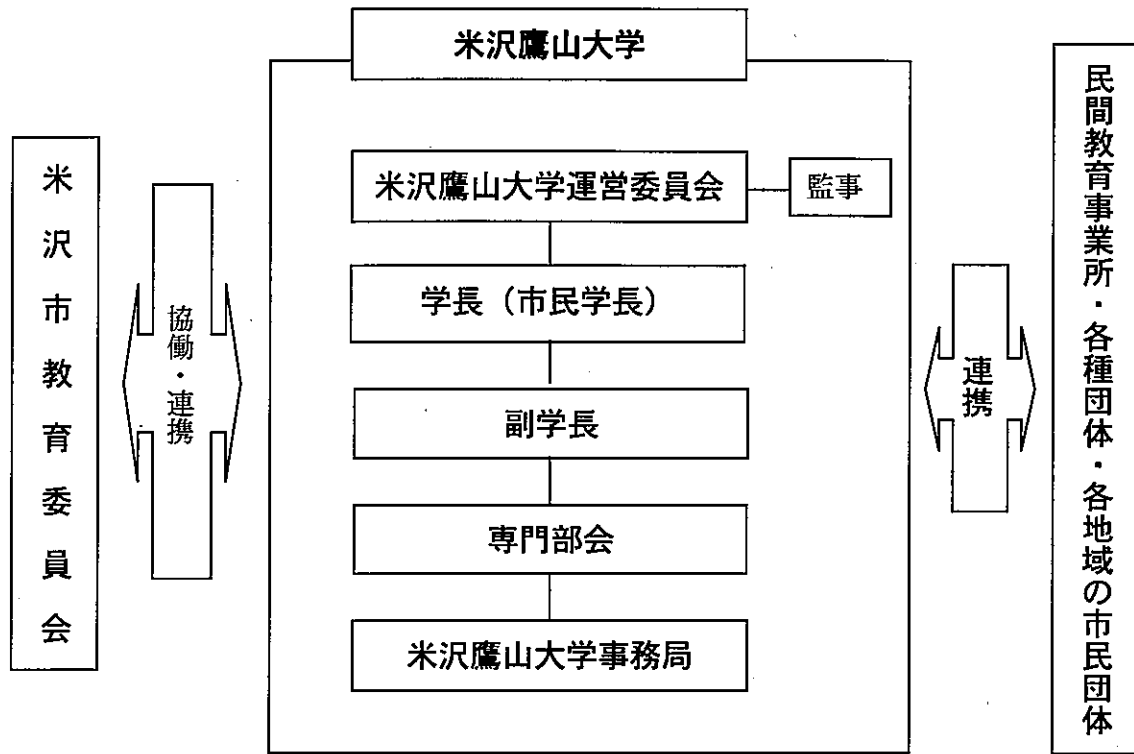
(3) 学習成果の活用

- 生涯学習ボランティア「マナビスト」の活動推進
- ボランティア活動の指導者や活動の場を提供

(4) 米沢市との協働事業

- 生涯学習ガイドブックの発行・生涯学習フェスティバルの開催など

(5) 米沢鷹山大学組織関連図



《所感》

平成26年9月27日に、キャロライン・ケネディ米国大使が米沢市を訪問し、大使の父であるジョン・F・ケネディ元大統領が敬愛する鷹山について、「父は、『人は一人でも世の中を変えることができる、皆やってみるべきだ』と言っていた。鷹山ほど「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成さぬは人のなさぬなりけり」と端的にそれを言い表した人はいない。鷹山の遺産が今の世代まで受けついていることも素晴らしいことだ」とスピーチした資料の説明を受けた。

米沢市は郷土の先人たちの生き方、考えを通して子どもたちの心を育む教育に力を注いでおり、児童生徒の道徳性を養い、郷土に対する深い理解と愛情を養っている。あわせて、生涯学習においても「米沢鷹山大学」として市民全体の生涯学習にも活かしていることに、大変すばらしい施策であると認識させられた。

松伏町においても郷土に貢献された偉大な先達の伝記・逸話などを題材に取り上げた資料を作り、副教材として使用することで、児童生徒の道徳性をより養い、道徳授業に活かしていけるのではと考えさせられた。